

静岡県立吉原高等学校2年生：唐井麻琴

私がこのプログラムに参加した理由は3つあります。1つ目はニューヨークの多様性に対する歴史や文化に触れたかったこと。2つ目は自分の住む地域を活性化させたいという夢から、ニューヨークを見て学びたかったこと。3つ目は国際交流に興味があり、実際に外国へ行ってみたいかったということです。それでは、私のニューヨークの10日間について、この3つの事柄に沿って紹介しようと思います。

まずは、1つ目に関してです。私たちは Stonewall National Monument という場所に行きました。そこはアメリカにおける、ゲイ・レズビアンの人権運動発祥の地となった、多様性についての歴史や文化を感じることでできる場所です。私たちは、オンラインの教育プログラムを受けたあと、実際にスタンウォールへ行ってきました。そこにはたくさんの歴史的な写真やダイバーシティを象徴する旗、「ゲイ解放」を謳った像があり、私たちにとって



てそれらは、ストーンウォールの歴史を示す、とても感動的なものでした。しかし、そこにいる人は、ただ新聞を読んでいたり、お弁当を持ってきてランチをしていたり、誰かと待ち合わせをしたり、ただ会話をしていたり、写真や旗や像を気にしている様子はありませんでした。像と一緒に写真を撮っているのはツアーリストだなど分

かるくらいには、その光景が彼らにとって日常になっていると分かりました。「あそこはゲイやレズビアン場所だからちょっと、」というような雰囲気はなく、誰も何も気にしてなさそうな、この穏やかな雰囲気こそ、私たちが形成すべき、守るべきダイバーシティなのではないかと感じました。ストーンウォールの話からは離れますが、ニューヨークには多様性への意識から、男女兼用のトイレが様々な場所にありました。日本には男女兼用のトイレより、男性・女性それぞれのトイレの



ほうが多いですね。私がスタバで男女兼用のトイレを利用しようとしたとき、ちょうど男性2人がトイレの洗面所で手を洗っていたため、その中に行くことにすごく違和感がありました。日本では中々見ない光景でしたので、困惑しましたが、そこでもニューヨークの多様性に対する意識を感じることができました。

次に、2つ目に関してです。私は日頃から地域振興をしたいと強く考えています。年々、地域の人同士で関わりあえるイベントや機会が減ったり、若者の興味が薄れていく自分の地域を見て、寂しいと感じるようになりました。高校生のうちに、自分の地域の活性化を手助けできる何かをしたい、というのが私の夢です。そこで、盛り上がりのあるニューヨークの街並みや雰囲気を見て学びたいと思いました。実際、ニューヨークの街を見て自分のしたいことが具体化したように思います。まず、ニューヨークに来てびっくりしたことは、街



なかに綺麗に整備された植物が沢山あることです。これは田舎だけでなく、マンハッタンでもそうだったので驚きました。植物があるだけで、街が健康的に見えるし、色鮮やかに、華やかに見えます。自然と共存しているようなその光景は本当にかっこよくて、日本にももっと沢山の植物があればいいのに、と思いました。次に、街がアートで溢れていることです。例えば、建物の壁や看板、地面に描かれているたくさんの絵です。日本でも同じことができるかといえば、そうではないと思いますが、街中に描かれたそれ



らの絵は、私のイメージするニューヨーク！！という感じで心が惹かれました。次に、日本にはないような不思議なビルが沢山ありました。美妙に傾きのあるビル、捻れているビル、風が吹いたら折れてしまいそうなほど細長い高層ビル、てっぺんがとんがっているビル、他にも説明が難しいよ



うな複雑な形をしたビルが沢山ありました。そのように、マンハッタンはどこを歩いてもアートを感じる、面白い街でした。私はここに来て、ニューヨークの街と自分の地域との違いをたくさん発見しました。そして、今私の地域に必要なのは、みんなが自分の地域を好きになれるような環境整備であり、高校生の私にできることも本当はもっと沢山あることに気が付くことができました。これらの気づきを、これからの私の地域活性化という夢に必ず役立てたいです。

次に3つ目に関してです。私はこの10日間の留学で多くの人と出会い、交流することができました。改めて、私は人と交流することが好きなんだなと感じました。たくさんの交流のなかから4つについて紹介します。

まず一つ目の出会いは、私達をニューヨークへ連れてきてくれた望月良子さんと、一緒にニューヨークへ行った望月響くんです。名字が同じ望月なのはたまたまです。ニューヨークに来るまで私たちは他人だったのに、10日間一緒に生活していたことが凄く不思議な感じです。日本に帰ったら、お二人ともう会う機会がないのは寂しいです。私はお二人に出逢えて本当に嬉しいです。



2つ目の出会いは、良子さんの娘さんのマイラさんです。マイラさんは、熊本でALTをしていたことがあり、私たちにゆっくりで丁寧な英語で話しかけてくれました。日本語も話すことができ、とても優しかったです。私達が普段泊まらせていただいていた良子さんの家には、マイラさんが日本語の勉強に使った数々の本がありました。良子さんからの

話を聞いていても、マイラさんは本当に勉強熱心で素敵なお方だなと感じます。私も英語に対してもっと真剣に勉強をしたいと思いました。

3つ目の出会いは、ハンター大学で日本語を学んでいる生徒さんたちです。ハンター大学を案内してくださったあと、一緒にラーメンを食べに行きました。なぜ日本語を勉強しているのか、という私からの質問には多くの生徒さんが、日本のアニメが好きだからと答えてくれました。アニメのコスプレをしたときの写真を見せてくれた人もいます。どんなアニメが好きなのかと聞くと、やはり日本の昔のアニメの名前がたくさん出ました。



これは吉原高校で国際交流をしたときも感じたことですが、海外の人のほうが日本の古いアニメについてよく知っています。私はそれらのアニメを知らなかったので、そのことについては会話が広がらなかったです。国際交流をするには、まず、自分の国について、(それはアニメについてだけでなく、例えば、日本にはどんな場所があるのか、何が有名なのか、何が流行っているのか、など)よく知っていることが大切なのだと、改めて理解することができました。最後にはみんなで写真を撮りました。国に関わらず、新しい友達を作ることができたのでとてもとても嬉しかったです。その一人のサシャさんは、「次にニューヨークに来るときは私がオススメの場所を案内するよ！」と言ってくれました。

4つ目の出会いは、ロングアイランドのジャパニーズカルチャーセンターで日本語を勉強している、生徒さん(アレックスさん、ライアンさん、マイケルさん)たちとその先生方です。私たちは英語を、生徒さんたちは日本語を、互いに勉強しながら会話をしました。生徒さんたちが楽しそうに日本語を使い、勉強している姿を見てとても嬉しくなりました。加えて、先生方の姿を見て、ニューヨークで日本語を教える、そんな仕事があるんだと知ることができました。吉原高校の国際科に通い勉強をしている以上、英語を使った仕事を視野に入れる必



要があると考えています。今回の留学では、ニューヨークで働く日本人のたくさんの仕事スタイルを、見て知ることができました。それは私にとって、とても貴重であり、自分の将来への視野を広げることができました。



その日、響くんと私は、ライアンさんの家で1泊させていただきました。ライアンさんは近くの大きな公園とビーチとレストランに連れて行ってくれました。レストランではパスタを注文したのですが、その量が私が思っていたよりも遥かに多く、流石アメリカだ！！と感動しました。残った分はボックスに入れて持ち帰り、翌日の朝ごはんにしました。

ライアンさんとアレックスさんは、その次の日のプールパーティにも来てくださいました。ジャパニーズカルチャーセンターでの交流会よりももっと会話ができ嬉しかったです。最後、さよならのときに、私たちはアメリカ式のハグでお別れをしました。お別れは本当に寂しかったです。今度はもっと英語を話せるようになってから、絶対にまた二人に会いにニューヨークに来たいです。



それらのすべての出会いは、このプログラムに参加しなければ得られなかったものだと思うと、本当にこのプログラムに応募してよかったと思えます。私達のために時間を作って交流して下さったすべての方に、とても感謝しています。ありがとうございました。全世界に向けて、私はみんなが大好きだと叫びたい気分です！！！！

今回ニューヨークに来たことで、貴重なことを沢山見て、知って、学び、体験し、自分の世界を広げることができました。英語をそこそこ聞き取れたこと、話すことができたこと、逆に全く聞き取らずうまく話せず、それでもどうにかコミュニケーションをとれたこと、地下鉄でみんなと逸れるなどの数々のトラブルが起こったこと、それらすべてから、私って意外と出来るんじゃない！！と知ることができ、自分に自信をつけることが出来ました。実は今私は飛行機に乗っているのですが、私はもっと出来る！という気持ちから、日本に帰ってやりたいことばかりです。



こんなに素敵な 10 日間の経験をさせてくださった良子さん、本当にありがとうございました。このプログラムは私の人生の大きな財産となりました。ニューヨークに留学することができて本当に良かったです！

